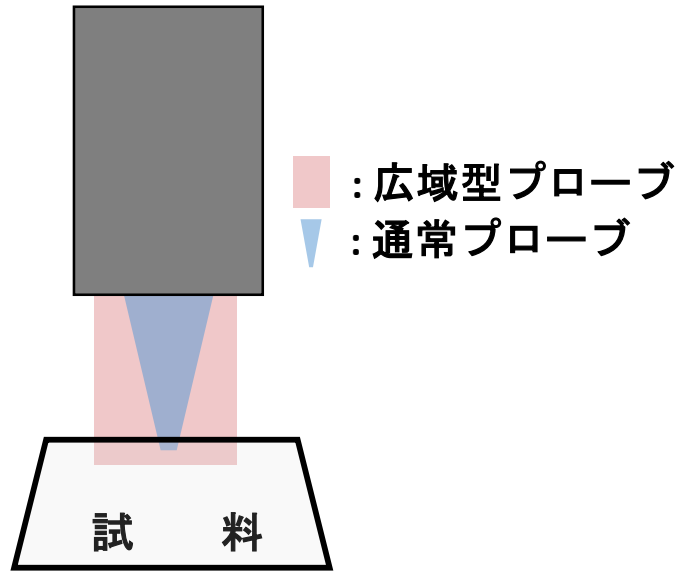


# Large Volume Standoff BallProbe®

## 広域型ラマンプローブ

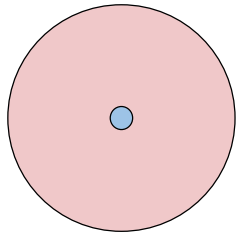


可視光を広域型ラマン プリスターパック内の  
プローブに照射したところ 配合錠

プローブの長さ  
約75 mm



### 測定領域の比較



### スポットサイズ

広域型プローブ : 約1 mm  
通常プローブ : 約100 μ



# 測定箇所によるスペクトルの違い

ネオドパゾール配合錠（測定箇所：表，裏，横）

## 【実験の目的】

広域型ラマンプローブを使って配合錠中の主薬の分散状態を評価する。

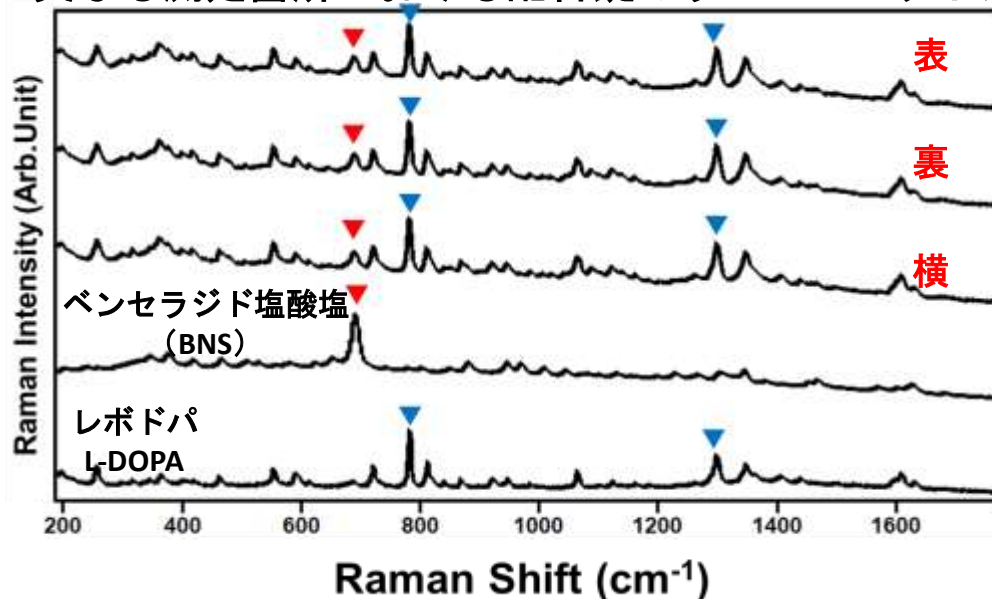
## 【装置】

- Marqmetrix社 All-In-One®
- 広域型ラマンプローブ (Marqmetrix社製)
- ネオドパゾール配合錠®  
(主薬：BNS, L-DOPA)

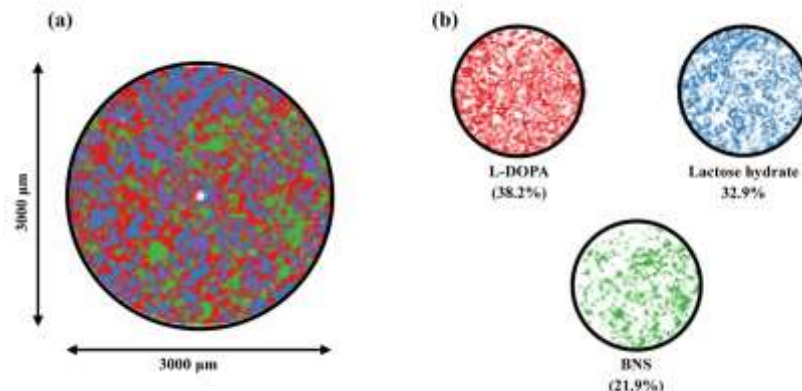
## 【結果】

配合錠中の主薬に特異的なピーク (BNS (▼) とL-DOPA (▲)) は測定箇所 (表, 裏, 横) が異なっても同等の強度を示している。配合錠中の2種類の主薬の分散状態は均一であることを明らかにした結果\*と同様, 広域型プローブを使えば測定箇所に依存しないことが示唆された。

## 異なる測定箇所における配合錠のラマンスペクトル



## ラマンイメージングによる配合錠中の主薬の分散状態



Reproduced with permission from Chem. Pharm. Bull. Vol. 68 No. 2 Pages 155-160  
Copyright 1999-2020 The Pharmaceutical Society of Japan

\*H. Hisada et al. "Determining the Distribution of Active Pharmaceutical Ingredients in Combination Tablets Using Near IR and Low-Frequency Raman Spectroscopy Imaging." *Chem. Pharm. Bull.*, **68**, 155-160, (2020).